



私の好きな一文字

先物協会ニュース

JCFIA マンスリー

JCFIA
JAPAN COMMODITY FUTURES
INDUSTRY ASSOCIATION

発行 日本商品先物振興協会
〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町9-9
TEL(03)3664-5731 FAX(03)3664-5733

<http://www.jcfia.gr.jp/>

主務省が市場機能、あるべき姿説明

国会議論、現状認識についても

先物協会 日商協 会員代表者懇談会(東部地区)

先物協会は日本商品先物取引協会(日商協)と共催で、会員代表者懇談会を7月13日(東部地区、東京穀物商品取引所)、同20日(西部・中部地区、KKRホテルオサカ)の両日、開催し、主務省から商品先物取引業界の現状認識・見通し等の説明を受けた。東部地区の懇談会には56社の84名が出席、活発な質疑応答もあつて理解を深めた。

トラブルを減らす

まず、日商協の荒井史男会長が、改正商品取引所法の施行、ガイドラインの強化、それに続いての金融商品取引法の成立(来年7月施行)、その国会審議と附帯決議を振り返りつつ、厳しい経営環境が続いているが、市場の信頼性向上と不招請勧誘禁止の導入阻止のため、流動性拡大を目指してトラブルを減らしていかなければならないと挨拶し、

主務省の説明に移った。

社会的インフラの重要性認識

まず、農林水産省の井上明商品取引監理官が説明した。その要旨は次の通り。第1点目として商品先物取引の特性と社会的インフラとしての機能について触れ、「商品先物取引は僅かな証拠金で、その10数倍の売買ができるレバレッジ商品で、また利益と損失が相対立するゼロサムゲームと

いう点に特性があり、そこがいいところ悪いところがある。一般の方々にはこのような点が理解しにくいので、取引参加を促す場合には相当に慎重にやっていかなければならない」。

「機能については、国会審議での議員の方々からの繰り返しの質問に対し、政府側は商品先物市場は農産物や鉱工業品の生産、流通で発生する価格変動リスクに対するヘッジ機能とか、市場価格の形成機能などを



代表者懇談会風景

有している社会的インフラであるとの答弁をして、その重要性の認識はかなり広まってきたと考えている」。

次に、「商品先物市場のあるべき姿は、第1に社会的インフラとしての機能を十分に発揮する市場でなければならず、単にマネーゲームの市場であつてはならない」。

「第2に、投資資金が十分に流入する市場でなければいけない。様々な商品が上場されて、多数の当業者、機関投資家、大口投資家、富裕層などが参加することによって大量の資金が流入、取引が活発な市場ができれば素晴らしいと考えている」。

「第3点目は、国民的な幅広い支持を受ける市場こそが商取引の目指す市場」。「あるべき姿のレベルが非常に高く、現実との差から、先の国会では商品先物取引に対して大変厳しい意見が多くなったと私自身は考えています」。

市場をなくしてはならない

「商品先物市場の現状については、第1に社会的なイメージがなかなか向上しなくて、幅広い国民的支持、信頼を獲得する状況までに達していない。支持・信頼

獲得のために様々な取組みがなされているのはよく承知していますが、なかなか結果として現れてきていない」。

「第2に、苦情、トラブルは依然多いという認識に立たざるを得ない。社会的なイメージが向上しない大きな原因はここにあるのではないか」。

「このことが取引に参加しようとする方々を限定し、市場設計も小ぶりにならざるを得ない」。

商品ファンドの利便性向上

続いて、経済産業省の近藤智洋商務課長が井上監理官とまったく同じ意見であると述べ、それ以外の商品取引所法の新旧対照表、商品ファンドの利便性の向上などを詳細に説明した。

最後に、先物協会の加藤雅一会長が、「課題を真摯に受け止めて改善すべきことは改善していく。経営環境大激変の中にあるので、簡単なことではないが、地道に問題解決に取組み、健全な発展を目指す」と締めくくった。

FUTURES PLAZA

「個人金融資産1、506兆円」。誰しも一度は新聞記事やニュースで耳にしたことではないでしょうか。日本銀行が発表した資金循環統計によると、今年の3月末(2005年度末)の個人(家計部門)の金融資産残高が、前年同期比5.8%増となり、1979年度の調査以来、初めて1、500兆円の台に乗せ、過去最高となったそうです。



気になる個人金融資産の行方

トリフォ

営業戦略室課長 野村 匡史

が同45.2%増の122兆円、投資信託が同44.8%増の54兆円、国債が同26.0%増の26兆円といずれも過去最高の残高となりました。一方で、現金・預金の残高は同0.6%減の707兆円でした。日本の個人金融資産は、安全資産中心の資産構成で貯蓄好きと言ったイメージでしたが、金融政策等の影響もあつて、より有利な金融商品に積極的に振り分けられてきました。

以前から欧米では、金融資産を複数の投資対象に分散し、運用することが当然のように行われてきました

が、日本もその流れを汲むことは必至の情勢です。その中で、個人金融資産の現金・預金残高707兆円の仮に10%でも当業界に流れればどうなるかと考えています。

商品先物取引業界の証拠金の預り高もここ数年は約4、000億〜5、000億円、現在は4、500億円前後で推移しています。物へと考えると夢は膨らみます。商品先物取引業界は、改正商品取引所法等の影響で数年売買高が減少しましたが、各取引員の努力により、徐々に回復してくると

考えます。このような業界事情の中で、当社も営業資産を拡大しようと企業努力は行っていますが、ここ数年は伸び悩んでいます。その状況を打破するために、組織体系の強化を図るなど、発展に向けて企業内整備を行っております。今は、その整備も整い新たなスタートと奮起し、日々邁進していききたいと考えています。

「1963年千葉県生まれ。1983年太陽ゼネラル株式会社(現トリフォ株式会社)入社。2000年6月より営業戦略室に所属。」

商品さきもの 応援ナビ

開設

先物協会は7月31日から商品先物取引未経験の一般投資家を主たる対象とした啓蒙サイト(<http://www.tou-shikaouen-navi.jp/>)、「商品さきもの応援ナビ」を開設した。



主なコンテンツは、①先輩投資家の声(取引の魅力や留意事項、リスクに対する考え方などを紹介する)②わたしたちからのメッセージ(会員各社のPR情報や出演者の業務内容等

先物春秋

「天下の雨敬」こと雨宮敬次郎は東京商品取引所の理事長を務めたこともあるが、「投機界の魔王」と呼ばれた怪物である。その雨敬が言っている。「赤ん坊が生まれて泣き出す。もうあれは相場をしてやる。阿母を呼んで乳を飲む。呑まなかの相場をしてやるんだ。世の中はなんでも相場だ」

「古来、投機の必須条件として、冷静な頭脳、緻密な思考、広大な観察力、十分な資力、敏活な進退が挙げられ、生やさしいことではない。また、投機と商売とは根本的に異なる。商売は薄利で永続、投機は一攫千金、商売は勤勉、第一、投機は知略の勝負、商売は腕、投機は頭、商売は正兵(正攻法)、投機は奇兵(不意打ち)と、ことごとく対極的である」人は投機を忌避する一方で、投機にあこがれる。一攫千金は人類永遠の夢である。だからゼロ金利に等しい預貯金にこだわらず、サマージャンボ宝くじの行列に並ぶ。いま先物業界は「不招請勧誘禁止」なる妖怪が徘徊している。トラブル件数が減らないと禁止措置が講じられるかも知れない瀬戸際に立たされている。トラブルは減らさなければならぬ。だが、トラブルの本身こそ問題だ。お客様は神様だとは申せ、悪知恵を巡らせ、この風潮を好機ととらえ虎視眈々と獲物を狙う連中は顧客の風上にも置けない。人は皆投機心を持つている。その投機心の発露が産業インフラを担う。先物取引の不可思議さともいえるようが、人類の英知の所産である先物の灯は消してはならないし、永遠不滅である。(泉)